

令和六年二月号

《第一三四号》

しるへび

宗教法人岩國白蛇神社

〒740-0017

今津町六丁目4-2

☎ 30-3333

### 如月の祭典・行事案内



【月次祭】 九時半

十一日(日)

紀元節祭と一緒に実施

二十三日(金)

天長節祭と同時に実施

【節分祭】 十五時 豆撒き神事は三時半

三日(土)

【紀元祭】 九時半

十一日(日)

【祈年祭】 九時半

十七日(土)

【天長祭】 九時半

二十三日(金)



【昭和天皇御製】(第一二四代)

「社頭雪」

ふる雪にこころきよめて安らげ  
き世をこそいのれ神のひろまへ

(昭和六年)

### 【歳旦祭】 一月一日(月)

写真に見られるやうに今年の元日は穏やかで爽やかな日の出を拝むことができました。早朝から多くの初詣でにぎはふ中、職員と臨時の巫女六名で、授与や祈願等で多忙を極めました。夕方になつても参拝の列は長く続き、感謝の至りです。

九時半からの歳旦祭には、崇敬会会長に責任役員の方々も参列され、新年の出発に相応しい祭典となりました。宮司もその挨拶で、この日和りのやうに希望にあふれる令和六年になるのではないかと話されました。

その日の夕刻に、能登半島地震の報せを参詣者から聞くことになりました。ここに改めて、被災された方々へお見舞ひ申し上げる次第です。また、亡くなられた方々に対しお悔やみを申し上げます。



「初日の出を御神木の間に遙拝しました」

一日も早い復興を願はざる得ません。当社もできる限りの支援をしたひと考へてみます。皆さまにもご支援をお願いします。

### 【推薦図書】

#### 『空から提言する新しい日本の防衛』

―日本の安全をアメリカに丸投げするな―

織田邦男著 一八七〇円ワニ・プラス

「・・・汝、平和を欲するならば、戦争を準備せよ」という格言は有名である。だが、日本でこれを唱えた途端、『好戦者』『極右』『軍国主義者』のレッテルを貼られてしまふ。お偉い学者さんが集まっているはずの日本学術会議が、『軍事研究』をしてはなぬと、とんでもない要求を国民に突き付ける。



2つの共産主義国に囲まれ、3つの独裁国、核保有国に囲まれる日本。こんな危険な安全保障環境下にあつて、二度の核の被害をうけぬよう、非核三原則の見直しを含め、核抑止戦略をゼロベースで議論しようと言つた途端、村八分よろしく白眼視され、爪弾きにされてしまう。日本では、『もしかして』と考えることすら、なかなかできない現実にある。安全保障はワシントンに丸投げし、金儲けに専念してきた七十七年。2世代にわたつて安全保障を考えてこなかったツケが、莫大な

利息をつけて今、現れている。」

(はじめに) から

「…国家という人はどこにもいない。国家とは同胞、友人、知人、そして自分自身のことである。自分自身が国家そのものだ」という現実に戦後日本社会は目を伏せて来た。その結果、国家意識の希薄化は深刻なまでに進んでいるようだ。《略》『戦争のことを考えさえしなければ、平和が続く』と言った愚昧さから、日本もそろそろ目を覚まさないければならない。考えたくないことを考える。最も起こってほしくないことを考える。これが安全保障の基本である。平和を維持するためにも、この基本に立ち返らなければならぬ。」(第五章 国民の意志こそが国防の「最後の砦」から)



## 二・十一紀元祭 (建国記念の日) に 参列しませんか。

九時半から当神社にて行はれます。祭典では、巫女舞と詩吟、そして、「紀元節の歌」の奉納があります。

わが国の建国をより多くの方々と共にお祝いしたいと思います。

祭典後には、御神酒の拝戴と撒饌の授与があります。

## 『古事記』(五十四)

火遠理命の嘆息

これを聞いた海

神は、海の大小の魚

をとごとく呼び集めて「もしやこの釣針を取った魚は居ないか」と尋ねて言った。すると多くの魚たちが答へて「この頃、赤い鯛が喉に骨が刺さつて、物を食べる事ができない、と悩みを訴えてゐます。だから、きつと赤い鯛が取つたのでせう。」申し上げました。そこで、海神が赤い鯛の喉を探つたところ、釣針がありました。すぐに取り出して、洗ひ清めて火遠理命に差し上げました。その時、海神が教えて言ふには、「この釣針を兄君に返される時、仰せになる言葉は、『この釣針は、憂鬱になる釣針、気がいらいらする釣針、貧しくなる釣針、愚かになる釣針』と唱へて、手を後ろに廻してお渡しください。そして、その兄君が、高い土地に田を作つたら、あなた様は低い土地に田をお作りなさい。また、その兄君が低い土地に田を作つたら、あなた様は高い土地に田をお作りなさい。そのやうになさつたら、私は水を支配してゐますので、三年間は必ずその兄君は、貧窮に苦しむこととせう。もしもそのやうになさることを恨みに思つて、あなたを攻めて戦ひを挑んでくる時は、この潮満珠を出して潮水に溺れさせ、もし兄君が苦しんで許しを乞ふならば、潮干珠を出して命を助け、かうして悩ませ苦しめなさいませ」と言つて、潮満珠と潮干珠はせて二つを授けて、直ちに鰐魚どもを全部集めて、尋ねて言ふには、「今、天津日高の御子の虚空津日高が、上の国(葦原中国)にお出かけにならうとしてをられる、誰か幾日にお送りして復命するか」と言つた。

(続く)

能登半島地震の犠牲になられた方々へ衷心より哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞ひ申し上げます。尚、被災地域への復興に対して皆さまのご支援等を切にお願いを申し上げます。

## 2月7日は「北方領土の日」の日です。



この二月七日は、一八五五年(安政元年)伊豆の下田で、『日露通好条約』が結ばれ、平和のうち択捉島とウルップ島の間に国境を定め、択捉島から南はわが国の領土として国際的にも明らかにされた歴史的な意義をもつ日であり、平和的な話し合いの中で領土の返還を求める北方領土返還要求運動推進の目的に最も合った日として設けられたものです。